



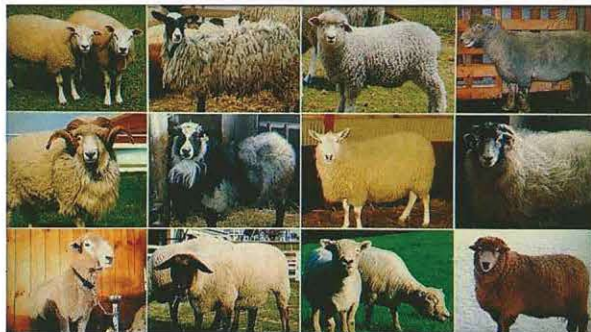
ファッション素材の
ちょっと・ウンチク

ウールの先祖 ムフロン



多摩動物公園のムフロン

秋冬衣類に欠かせないウールは、羊の毛であることが知られています。世界に1,000種類もいるといわれる羊は、人間による品種改良から作り出された動物です。



これらの羊たちは、ムフロンという動物が起源だとされています(諸説あり)。ムフロンはコルシカ島など地中海の島々やイランなど中近東に野生する動物です。大きく巻いた角が特徴で、山岳地帯に群れで生息しています。有史以前から家畜化され、繊維産業の発展とともに羊として多様な品種が現れました。ムフロンは日本では多摩動物公園などで観ることができます。

絵画の中の洗濯風景

洗濯場の女たち



チャールズ・フレデリク・ウルリッヒ (1885年)

ウルリッヒ Charles Frederic Ulrich ((1858-1908)) は、アメリカ合衆国のニューヨーク生まれの画家ですが、27歳の頃にドイツに渡り、主にヨーロッパで活動しました。労働者階級の人々の暮らしや孤児院の光景を描いたことで知られています。

当時には少ない社会的なテーマを題材とした作品に多く取り組み、アメリカの最良の人物画に贈られる賞として創設された「トーマス・B・クラーク賞」の第1回の受賞者になったということです(ウィキペディア)。

この絵には、手前にシーツを拾う人、7人の洗濯板を腹で支えながらゴシゴシと洗う人、そして中央奥には彼女たちを監督するように眺める年配の人など9人の働く女性が描き込まれています。

このように多くの人たちが働いているのは、シーツ類を専門的に洗う工場なのでしょうか。木に吊るされたロープ(クローズライン)には大量のシーツのようなものが掛けられています。

HD NEWS 2025 年3月 25 日隔月発行 第21 巻第2号通巻120号

くらし応援ニューズレター

HomeDry News

ホームドライニュース No.120



- 絵画の中の洗濯風景: 洗濯場の女たち
- ファッション素材のちょっと・ウンチク: ムフロン
- 繊維と服飾の物語:
ファッション文化の起源
- なるほど納得! 衣生活の知恵

シミや汚れは大切な衣類を傷めます

まごころクリーニング
ホームドライ ホームドライ

繊維と服飾の物語



ファッション文化の起源

ファッションは、日本語では「流行」とも呼ばれています。

服飾としてのファッションは、出版などのメディアによって流行するようになったと考えられます。

このことを研究した論文が、日本家政学会誌に「1830年代初頭のファッションプレートにみる女性像と服飾表現」（大澤香奈子、木岡悦子）として発表されています。

これによると、世界で最初のファッション雑誌JDM（Journal des Dames et des Modes）が、パリで創刊されたのは1797年ということです。その後、出版技術の発展に伴い1830年代になって数多くのモード雑誌が創刊されファッションの華が開いたということです。



Journal des Dames et des Modes

メディアは、常に新しいものを提供することになり、服飾の多様なファッション化が始まったといえます。この時代のファッションは、主に貴族階級の世界にあり、一般大衆には縁のないものであったといえます。当時のファッション雑誌にはファッションプレートというカラー版のリトグラフが掲載されていました。



ファッションプレート

このリトグラフには、素材などの解説が付けられており、シルクベルベットやカシミアなどの高級素材がふんだんに使われていることがわかります。

19世紀後半になると、貴族文化の崩壊と産業革命により大衆の中から工場経営者などの富裕層が誕生してきます。このような人々が貴族への憧れからファッションを受け継いでいきました。



1907パリのデパートが発行したカタログ

20世紀になって、ココ・シャネルをはじめとする既製服ファッションによって大衆に広まっていくことになります。



シミやヨゴレは大切な衣類を傷めます

「ちょっとしたシミが付いただけ」とか、「それほど汚れてないな」と思っても、汗や透明な飲料などが付いていることがあります。



保管中は、高温多湿の環境になりがちです。シミやヨゴレは湿気を吸収する性質がありますからカビが繁殖しやすくなります。カビは特に綿などの植物系繊維やシルクなどのタンパク質系繊維を養分にして成長するため、素材が損傷することになります。

クリーニングしたら、湿気がこもらないようにポリ袋から取り出して通気性良く保管することも大切です。

皮脂汚れや汗、食べ物や飲み物の成分は、保管中に酸化して黄ばみになることがあります。染料まで酸化分解して変退色が発生します。シミは時間が経過することで、黄ばみや変退色を起こしきれいに取ることができなくなります。